

2021 年度 小委員会活動成果報告

(2022 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	環境バリアフリー・ユニバーサルデザイン 小委員会		主 査 名：安部 信行 就任年月：2019 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (環境設計運営委員会)		委員長名：秋元 孝之 主 査 名：中島 裕輔
設 置 期 間	2019 年 4 月 ～ 2022 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>(設置目的)</p> <p>高齢者や障がい者も活躍できる社会づくりのためには、バリアフリーやユニバーサルデザインの理念が大変重要であり、設計・計画分野のみならず、光、音、温熱、空気環境などの建築環境工学的なバリアフリー・ユニバーサルデザインの視点が重要である。</p> <p>本委員会では、環境工学分野のバリアフリー・ユニバーサルデザインを専門としている研究者が集まり、情報を共有し、今後の日本や国内外の環境に関するバリアフリー・ユニバーサル環境をよりよいものにしていくために研究活動や新たな研究課題の抽出と重要性について検討していくことを目的とする</p> <p>初年度：大会のオーガナイズドセッションにて、建築環境工学的視点のバリアフリーをテーマとしたセッションを開催し、この分野の議論を深める。 2 年度：各委員がさらなる研究活動を行い、情報交換をすることを目標とする。 3 年度：他分野や建築学会の計画系のバリアフリーおよびユニバーサルデザイン関連研究者とも連携し、公開の研究会を企画する。また、環境要素の相互関係に着目した環境工学研究の推進を図りながら、さらなる研究課題の抽出に努める。</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：有り</p> <p>主査：安部信行 (八戸工業大学) 幹事：柴田祥江 (京都府立大学) 委員：岩田三千子 (摂南大学)、堀越哲美 (愛知産業大学)、田中直人 (島根大学)、土田義郎 (金沢工業大学)、二井るり子 (有限会社プラットフォーム)、宮本雅子 (滋賀県立大学)、伊藤大輔 (日本工業大学)、岡田仁 (株式会社ベネッセスタイルケア)、西尾幸一郎 (山口大学)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)	なし		
2021 年度予算	180,000 円	<p>ホームページ公開の有無：有り 委員会 HP アドレス：http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s18/</p>	

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	なし
講習会	なし
催し物 (シンポジウム・セミナー 等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	なし

大会研究集会	なし
対外的意見表明・パブリックコメント等	なし
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2021年度は、先進的なバリアフリーを施した高齢者施設の見学会を実施する予定であったが、コロナウイルス感染拡大により中止した。 2. オンラインで委員会を開催し、外部の情報系の研究者大森清博氏（兵庫県立福祉のまちづくり研究所）に講演をお願いして、MESH（コンピュータのプログラミングツール）を利用した認知症高齢者の居住環境改善の研究について情報交換をした。 3. オンライン委員会を3回実施した。委員4名が、各自が取り組む研究課題について報告し、委員相互に意見交換を行った。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 視覚障害者のコロナ禍における日常生活の変化についてのアンケート調査結果と、視覚障害者が困難な「密接回避」のためのIoT利用方法の検討内容について 2) 靴のフィッティング問題について、「子どもの足と靴を考える会」の調査研究結果からの考察と、最近の靴業界をめぐる動向（IoT活用によるフィッティング）について 3) IoT教育として小学校のプログラミング教育で実践しているMESHを活用した学校を幸せにするアイデア、および情報教育の現状について 4) 認知症高齢者を対象とした商業施設でのサイン計画について、特に見やすさの観点からについて 4. 委員会の特質である、環境工学分野を横断した研究者、計画系の研究者などと連携でき、研究活動や新たな研究課題の抽出と重要性について意見交換ができた。
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新型コロナウイルス感染拡大により、見学や対面での委員会開催が困難になった 2. 近年、大学関係の委員が多忙であり、委員会開催の日程調整が困難である

2021 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A B C D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>メンバー個々には研究活動を行っているが、2020 年度よりコロナ禍の影響が大きく、2021 年度もオンラインでの委員会開催のみとなり、企画した見学会は中止を余儀なくされた。</p> <p>2021 年度は、メンバー各自が行ってきた研究活動について報告し、意見交換を行うことで、バリアフリー・ユニバーサルデザイン環境の実現にそった研究の方向性が抽出できた。特に、IoT の進歩による様々な展開が期待でき、簡単なプログラミングツールを用いた高齢者および障害者の環境改善や、学校での福祉教育など、委員が関わる当該分野の研究活動の推進に寄与できると考える。</p> <p>将来の研究活動についての目標設定を明確にしながら、メンバー各自がさらなる研究活動を行って、今後も継続的に情報交換を行うこととする。</p> <p>メンバー各人は様々な建築環境工学的な研究成果や活動の場を有することから、建築を専門とする実務者や学生のみならず、その他の学校教育の現場などに対しても、当該分野の研究成果や専門的知識をより分かりやすく発信していくための今後の活動、発展が期待できる。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。